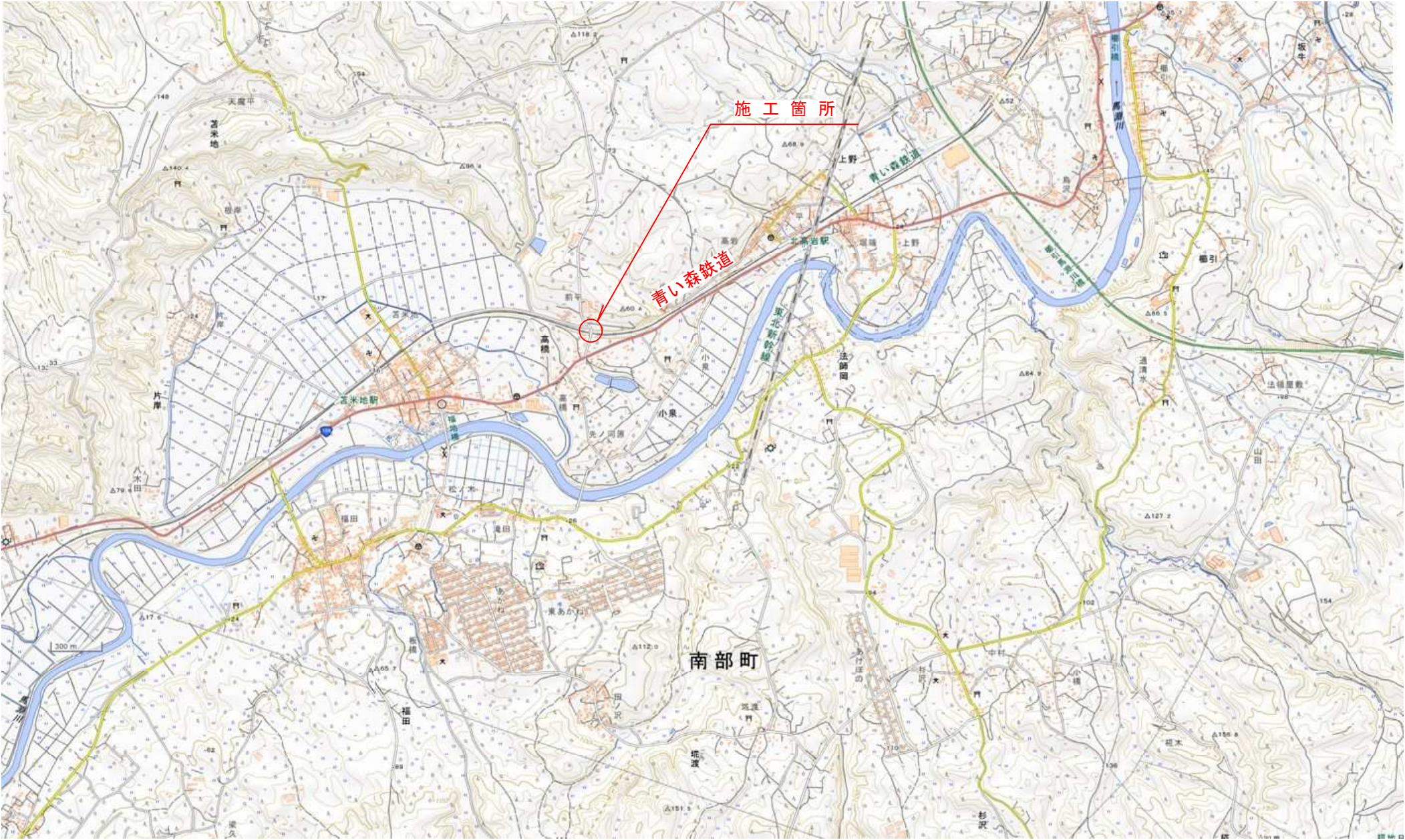


令和 7 年度 橋梁補修 工事	
工事番号	建設工第 25 号
路線名	町道高橋-麦沢線
施行箇所	南部町大字小泉 地内
高橋跨線橋位置図	縮尺 図 示
図面番号	葉中
南 部 町	
青 森 県	

高橋跨線橋 位置図

S=1:15,000



国土地理院 : GIS Maps

500m

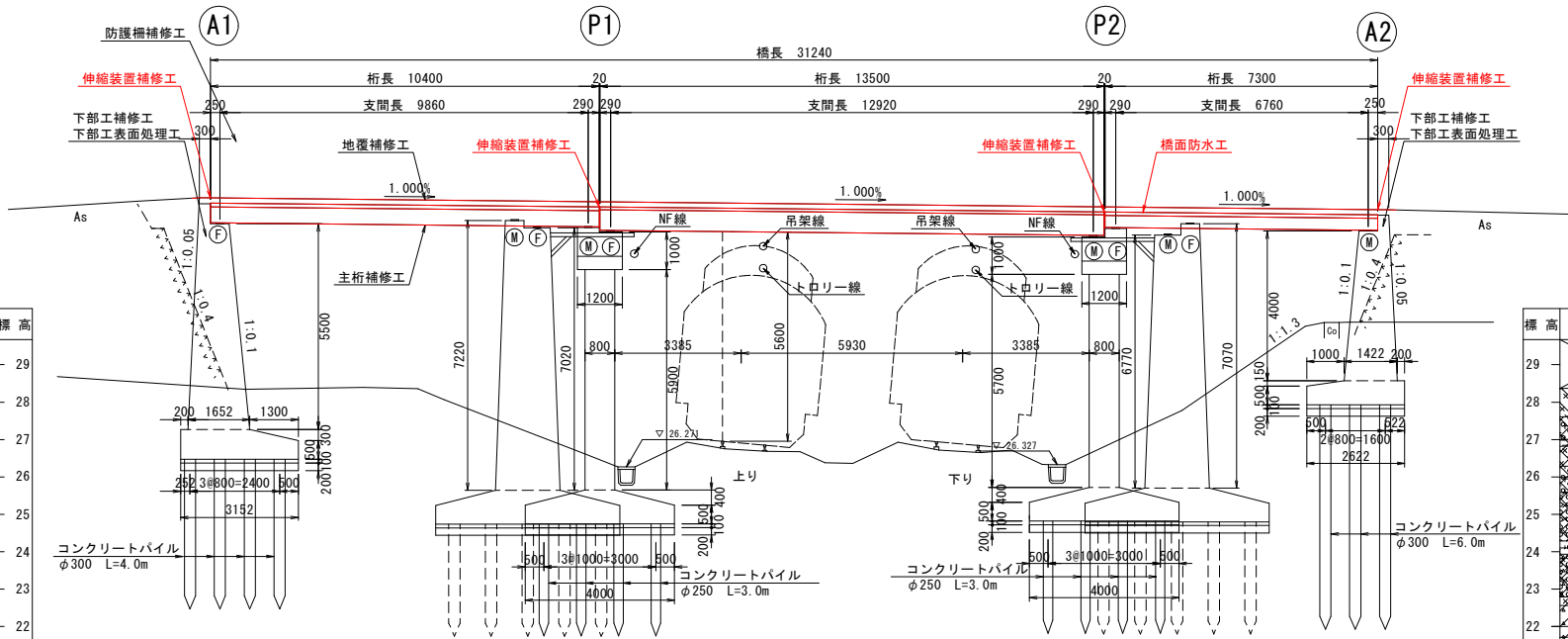
令和 7 年度 橋梁補修 工事	
工事番号	建設工 第 25 号
路線名	町道高橋-麦沢線
施行所	南部町大字小泉 地内
高橋跨線橋 補修一般図	縮尺 図 示
図面番号	葉中
南 部 町	
青 森 県	



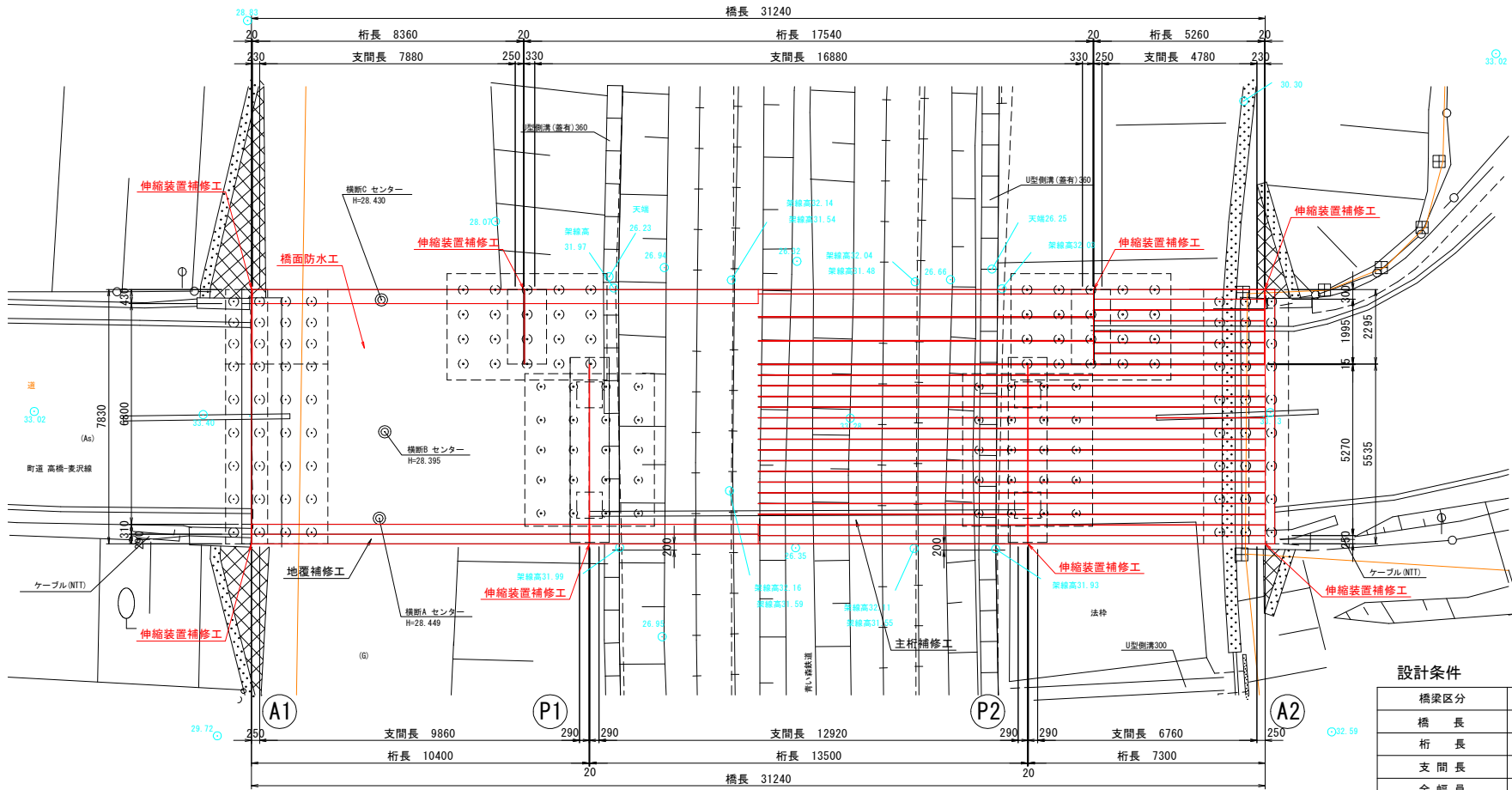
N 値	地質名	柱状図	標高
50 40 30 20 10	表土		29
	粘土・シルト		28
	粘土・シルト		27
	粘土・シルト		26
	粘土・シルト		25
	粘土・シルト		24
	粘土・シルト		23
	粘土・シルト		22
	粘土・シルト		21
	粘土・シルト		20

高橋跨線橋 補修一般図

側面図 S=1:100



平面図 S=1:100

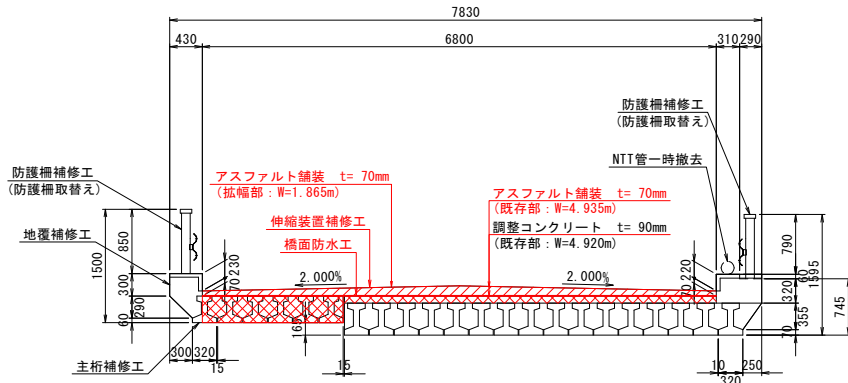


設計条件

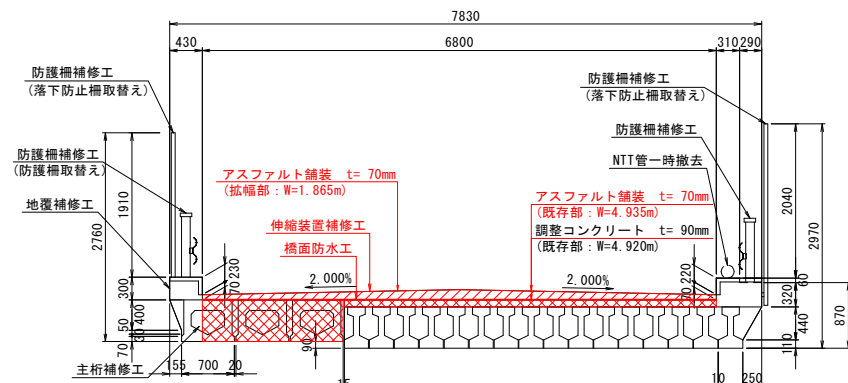
橋梁区分	本線橋	平面線形	R=∞
橋 長	31.240m	斜 角	90°
桁 長	10.400 + 13.500 + 7.300m(既存)・8.360 + 17.540 + 5.260m(拡幅部)	上部工形式	プレテンション方式PC単純1桁
支 間 長	9.860 + 12.920 + 6.760m(既存)・7.880 + 16.880 + 4.780m(拡幅部)	下部工形式	プレテンション方式PC単純ホーロー桁(拡幅部: 第2径間)
全 幅 員	7.830m	基礎工形式	重力式橋台+ラーメン式橋脚(既存部)+壁式橋脚(拡幅部)
有効幅員	6.800 m	基礎形式	杭基礎
設計荷重	TL-14	適用示方書	道路橋示方書(昭和39年)
舗 装	アスファルト舗装 t=70mm	架設年次	昭和43年3月

断面図 S=1:50

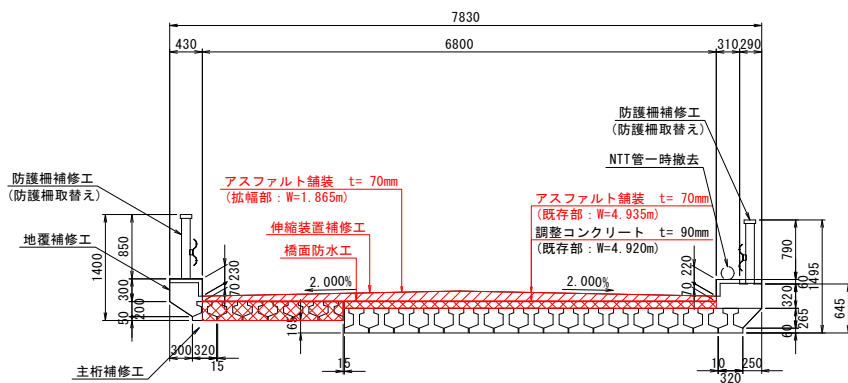
(第1径間)



(第2径間)



(第3径間)



補修項目

補修項目	補修工法
地覆補修工	地覆嵩上げ、目地補修工、表面含浸工(高分子系)
橋面防水工	複合防水工、フレッシュシート、舗装打替工(アスファルト舗装 t=70mm)
伸縮装置補修工	伸縮装置取替工
防護柵補修工	防護柵取替工、落下防止柵取替工
主桁補修工	ひび割れ充填工、断面修復工、表面含浸工(高分子系)
下部工補修工	ひび割れ充填工、断面修復工、表面含浸工(高分子系)
下部工表面処理工	表面含浸工(高分子系)

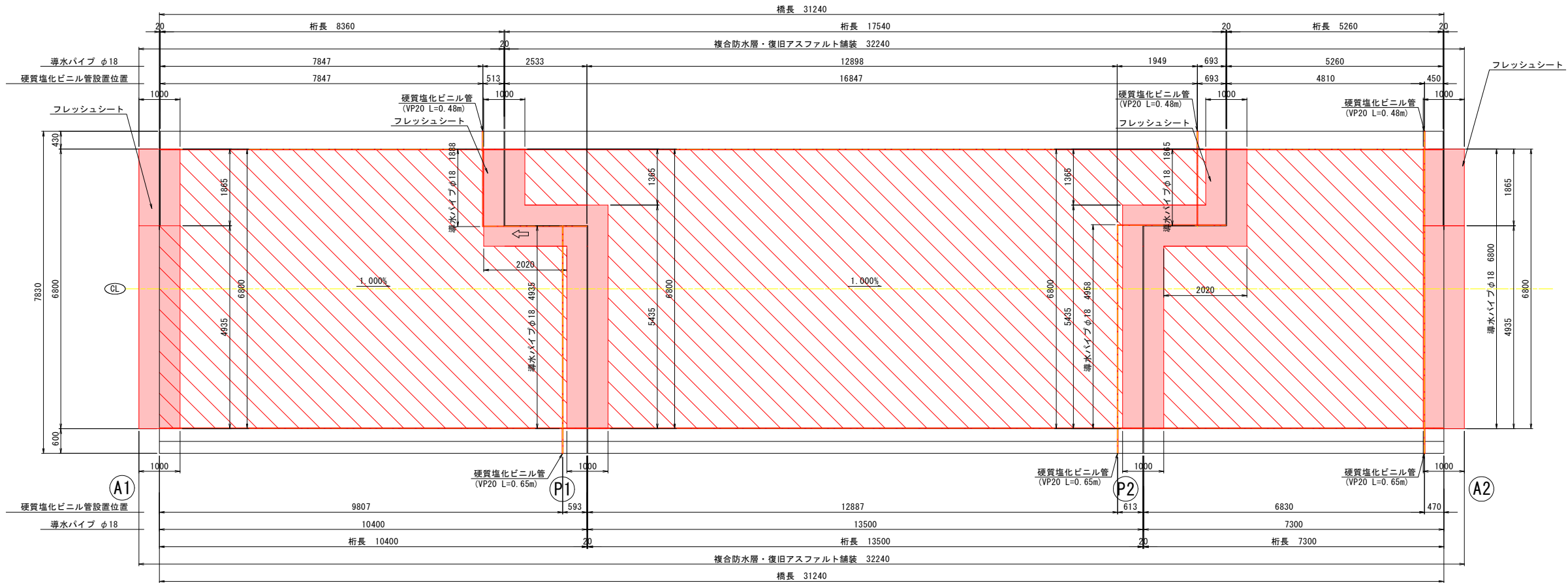
注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

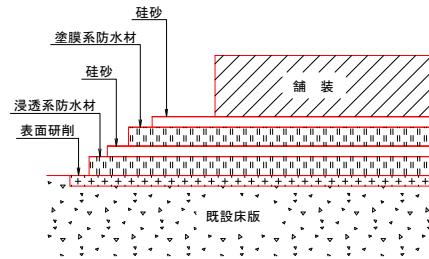
令和 7 年度 橋梁補修 工事		
工事番号	建設工 第 25 号	
路線 河川	町道高橋・麦沢線	
施行 箇所	南部町大字小泉 地内	
高橋跨線橋 橋面防水工図(その1)	縮尺	図 示
図面番号	葉中	
南 部 町		
青 森 県		

高橋跨線橋 橋面防水工図（その１）

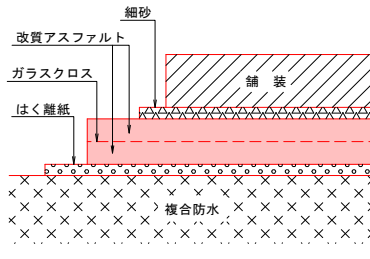
平面図 S=1:60



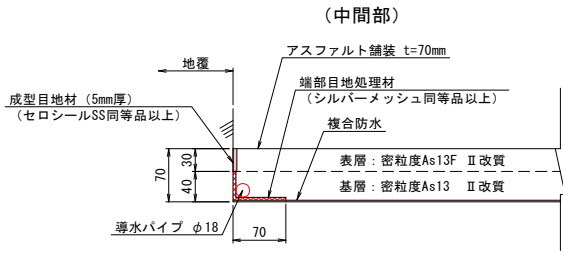
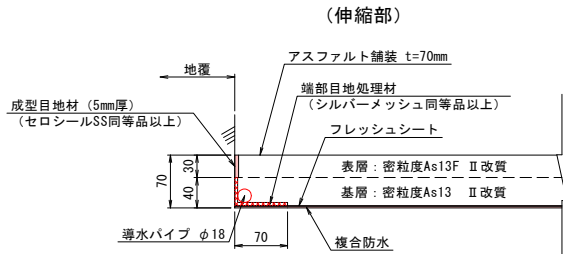
複合防水工詳細図 S=1:5



フレッシュシート工詳細図 S=1:5



防水層端部処理詳細図 S=1:5



数量表

名 称	備 考	数 量
舗装版破砕工	t=70mm(推定値)	219.2 m2
舗装撤去切断工	t=70mm(推定値)	13.6 m
防水層設置	複合防水層	219.2 m2
	フレッシュシート	31.3 m2
導水パイプ	φ 18	88.0 m
削孔工	φ 30	6 箇所
注入材	エポキシ樹脂充填	0.5 ?
硬質塩化ビニル管	VP20	3.4 m
エルボ	VP20用	6 個
バルブソケット	VP20用	6 個
フレキシブル管	φ 20	28.1 m
止め金具	クリップ	16 箇所
成型目地材	5mm厚	62.5 m
端部目地処理材	シルバーメッシュ同等品以上	62.5 m
アスファルト舗装設置	t=70mm	219.2 m2

- 注記
- 本図面は、既存資料および現地調査をもとに作成した図面である。
 - 補修工事の実施に当たり、寸法等については、詳細な現地測定を行い確認すること。
 - 舗装を剥いだ際、コンクリートに軟弱な箇所が確認された場合、軟弱部を撤去し、断面修復を行うこと。
 - 防水層の端部は40mm程曲げ上げること。（排水管位置でも同様）
 - 導水管は排水装置（硬質塩化ビニル管）に接続すること。
 - 排水装置を設置する際、鉄筋探査を実施すること。
 - フレキシブル管の先端は、桁下および橋台、橋脚躯体から600mm程離すこと。
 - 施工後はアスファルトにより排水機能が阻害されていないことを確認すること。
 - 止め金具設置位置を決める時は、鉄筋探査を行い既設鉄筋を避けて配置すること。

令和 7 年度 橋梁補修 工事	
工事番号	建設工 第 25 号
路線名	町道高橋・麦沢線
施行箇所	南部町大字小泉 地内
高橋跨線橋 橋面防水工図(その2)	縮尺 図 示
図面番号	葉中
南 部 町	
青 森 県	

高橋跨線橋 橋面防水工図（その2）

(拡幅部)

(既存部)

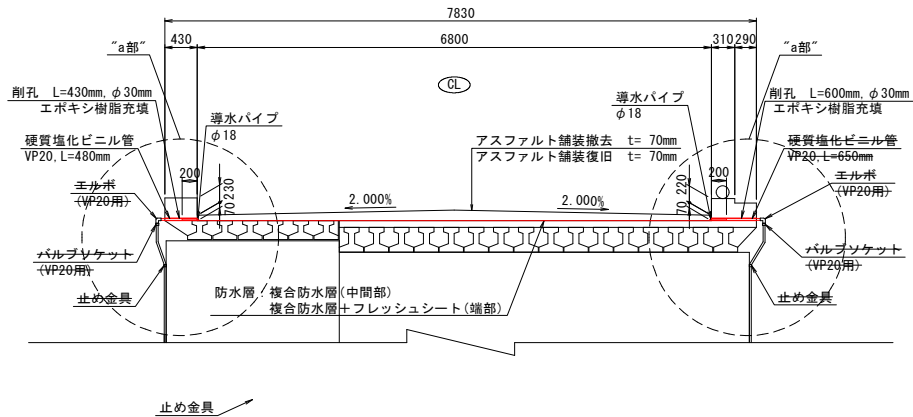
(拡幅部)

(既存部)

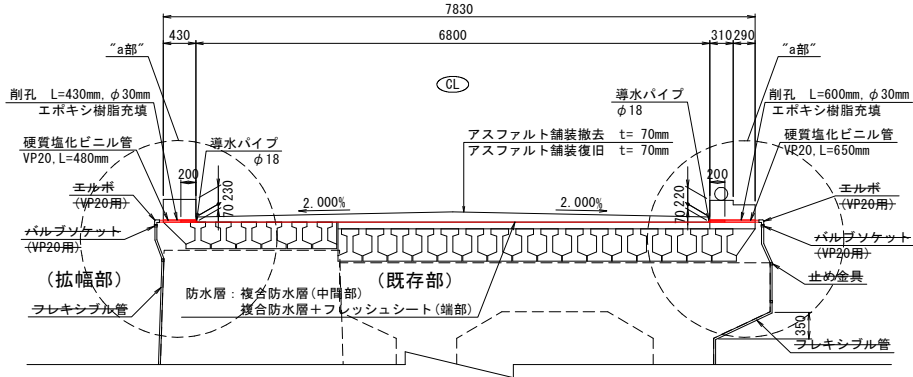
5
25

断面図 S=1:50

<A2橋台部>

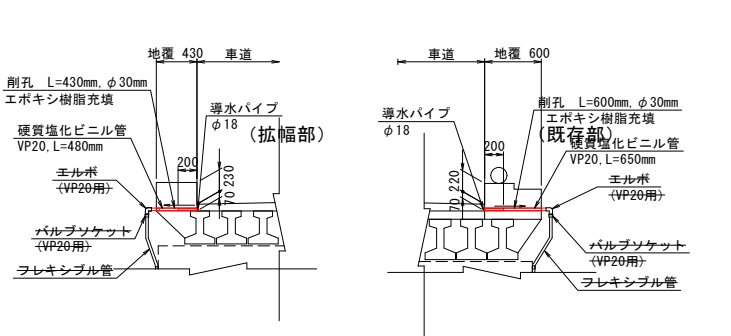


<P1, P2橋脚部(参考図)>

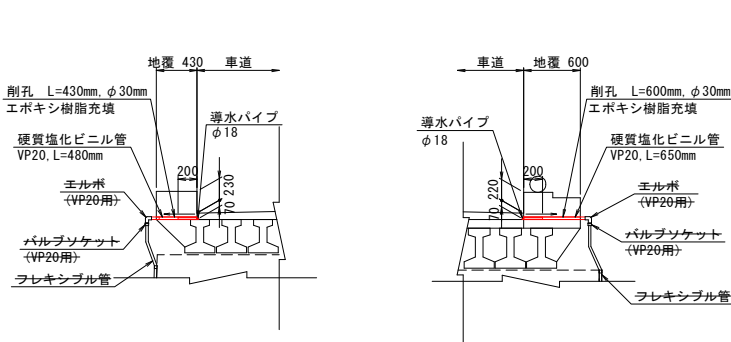


断面図 S=1:40

<A2橋台部>

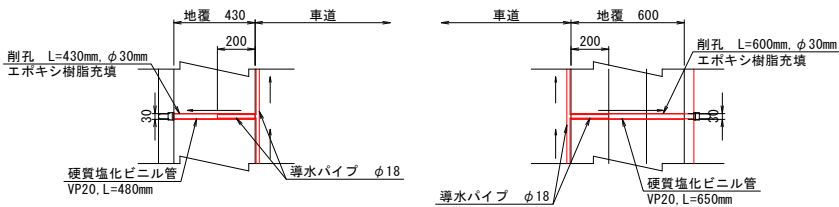


<P1, P2橋脚部(参考図)>

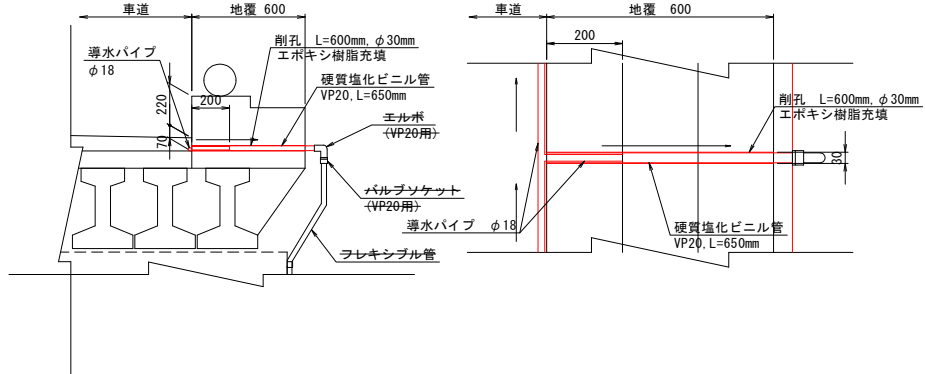


“a部”詳細図

平面図 S=1:30



<拡大図>

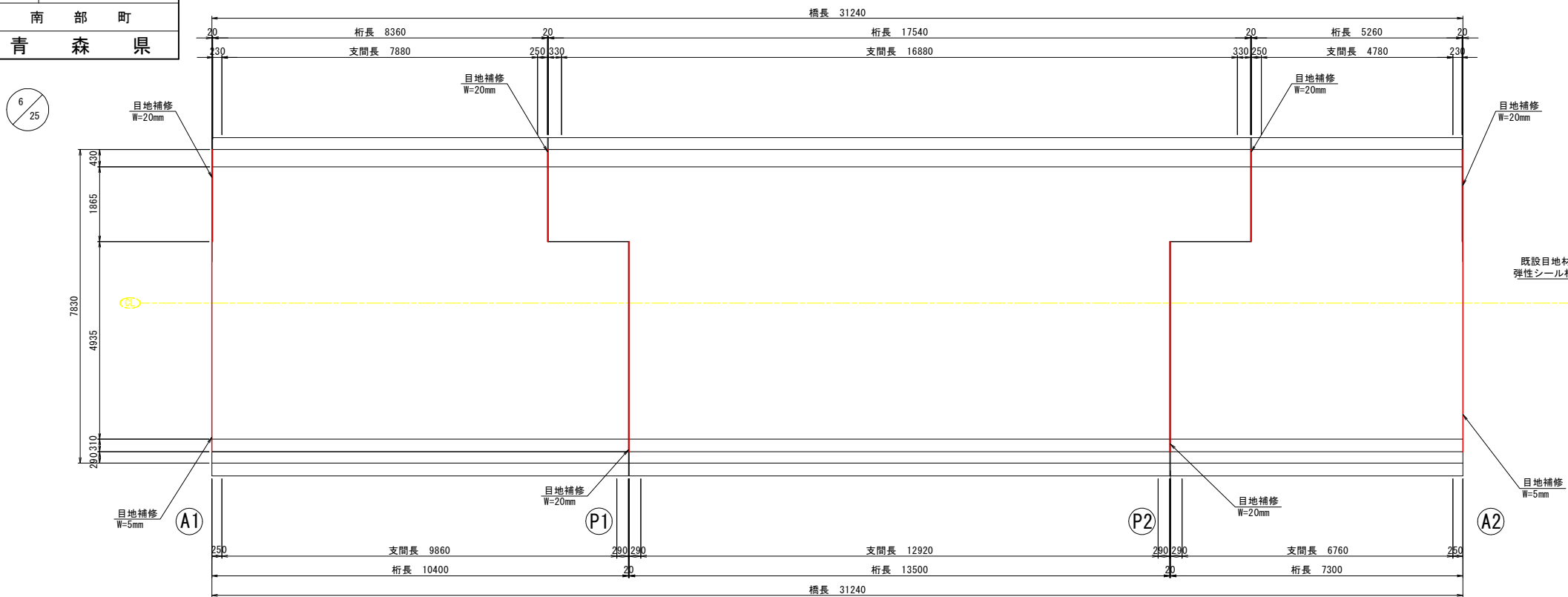


- 注記
1. 本図面は、既存資料および現地調査をもとに作成した図面である。
 2. 補修工事の実施に当たり、寸法等については、詳細な現地測定を行い確認すること。
 3. 舗装を剥いだ際、コンクリートに軟弱な箇所が確認された場合、軟弱部を撤去し、断面修復を行うこと。
 4. 防水層の端部は40mm程曲げ上げること。(排水管位置でも同様)
 5. 導水管は排水装置(硬質塩化ビニル管)に接続すること。
 6. 排水装置を設置する際、鉄筋探査を実施すること。
 7. フレキシブル管の先端は、桁下および橋台、橋脚躯体から600mm程離すこと。
 8. 施工後はアスファルトにより排水機能が阻害されていないことを確認すること。
 9. 止め金具設置位置を決める時は、鉄筋探査を行い既設鉄筋を避けて配置すること。
 10. 橋脚部は耐震設計の補強工法により変更があるため、参考図とする。

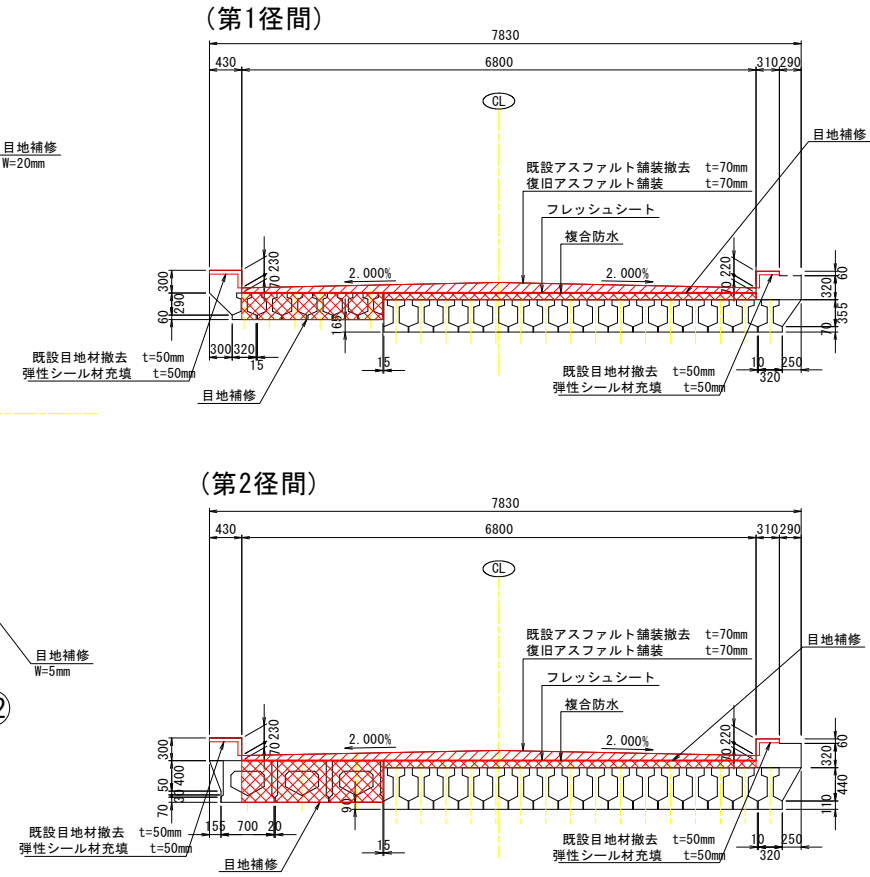
令和 7 年度 橋梁補修 工事	
工事番号	建設工 第 25 号
路線名	町道高橋-麦沢線
施行箇所	南部町大字小泉 地内
高橋跨線橋 伸縮装置補修工図	縮尺 図 示
図面番号	葉中
南部町	
青森県	

高橋跨線橋 伸縮装置補修工図

平面図 S=1:70

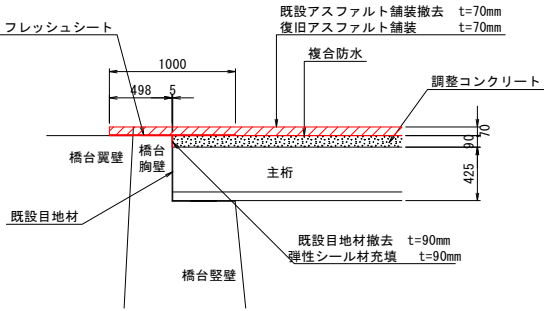


断面図 S=1:50

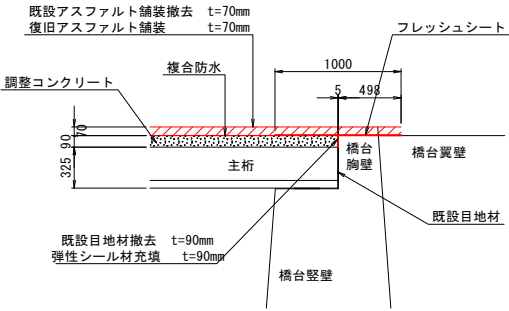


伸縮部目地補修詳細図 S=1:30

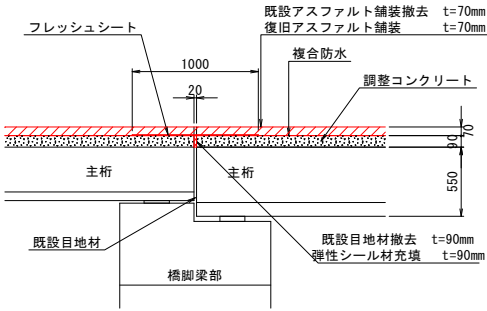
＜既存部＞端部側面図（A1）



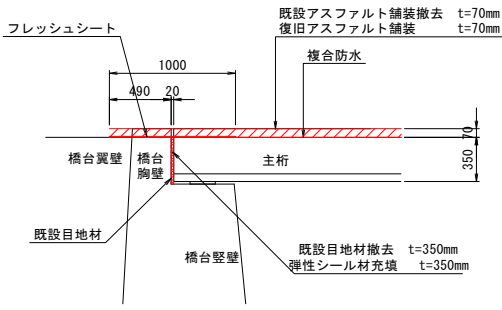
＜既存部＞端部側面図（A2）



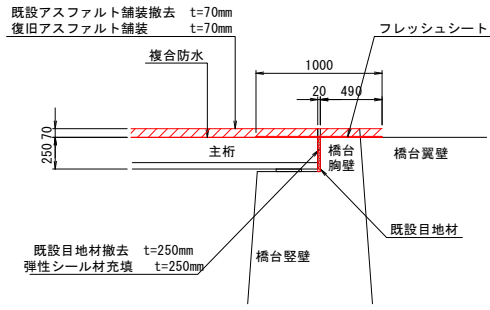
＜既存部＞中間側面図（P1-P2）



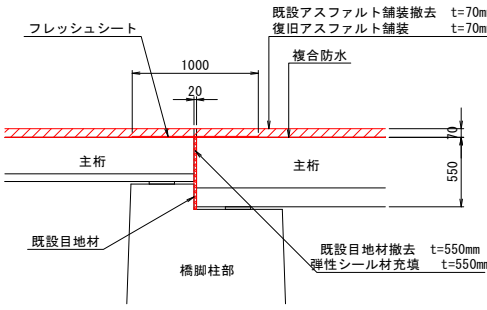
＜拡幅部＞端部側面図（A1）



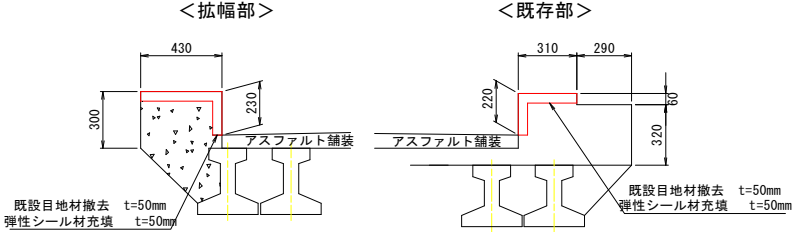
＜拡幅部＞端部側面図（A2）



＜拡幅部＞中間側面図（P1-P2）



地覆断面図 S=1:20



- 注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した。
 2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
 3. 胸壁上面のはつりで鉄筋が出てくる場合には、切断除去した後に切断面に防食塗装を塗布すること。